

序論)

皆さん、相続と聞いてどんな気持ちになるでしょうか。ある調査によると日本人の 99.6%の人が相続について悪いイメージを持っているそうです。おそらく相続対象者が何人もいて遺産相続の問題で家族の中が悪くなったり、相続できるものが富ではなく借金だったり、さらには相続できたとしても、日本では相続税というものがありますから、寧ろ頭を悩ますことになったり、そもそも手続き自体が大変だったりするからだと思います。

ところが、もし複雑な手続きなく、何の不利益もなく、もちろん相続税などかからずに、とんでもなく素晴らしいものを相続できるとしたらどうでしょうか？もしそんな都合のよい相続ができるのならば、相続について悪いイメージを持っている私たちも、素直に喜ぶのではないのでしょうか。

今日の箇所はイスラエルと私達に対してそんな素晴らしい相続があることを教えてくださっている箇所となります。

1) 相続対象者

まずは 11 節の前半を読みましょう。

54:11a 苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰められなかった女よ。

原文のヘブル語には「女」という単語はないので「苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰められなかった者よ」と訳した方が良いのかもしれませんが、バビロンに連れて行かれたイスラエルの人々は、まさに苦しめられ、嵐のような攻撃にさらされ、【主】から見捨てられたと思い込んで一切の希望を見失っている状態でした。

【主】はそんなイスラエルに対して、彼らが受け継ぐことができる素晴らしい相続について教えています。

では、その素晴らしい相続とは何かというと大きくわけて三つあります。

2) 栄光に輝く都

一つは輝く都です。11 節の後半から 12 節を読みましょう。

54:11b-52

見よ。わたしはアンチモンであなたの石をおおい、サファイアであなたの基を定める。あなたの塔を紅玉にし、あなたの門をきらめく石にし、あなたの境をすべて寶石にする。

アンチモンというのは、黒色の塗料などで使われる美しい石で、エジプトの女性たちがアイシャドーとして使っていたものです。そして、サファイアや紅玉、そしてきらめく石でこの都が作られていることが語られています。紅玉はルビー、きらめく石はエメラルドだとされているので、まさに神の民が相続する都はきらめく宝石で飾られたキラキラの都であることがわかります。

この都のことが新約聖書にはさらに詳しく描写されています。それがヨハネの黙示録の 21 章です。まずは 1 節、2 節を読みましょう。

21:1-2 また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。

神様が用意して下さる都は、夫のために飾られた花嫁のようなもので、実際にはイスラエルだけでなく、神の民全員に与えられる都です。花嫁ですから、イザヤ書で描写されているようなアンチモンをつかったアイシャドーがなされていても不思議じゃないですね。さらに黙示録をみると 11 節には

21:11 都には神の栄光があった。その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のようであった

とあり、18 節から 21 節には

21:18 都の城壁は碧玉で造られ、都は透き通ったガラスに似た純金でできていた。

21:19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、

21:20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパーズ、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。

21:21 十二の門は十二の真珠であり、どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは純金で、透明なガラスのようであった。

とあります。透き通った碧玉というのがイザヤ書でいうところの「きらめく石」のことでしょう。

黙示録の記述からも分かる通り、【主】が用意してくださる都は、あらゆる宝石で満たされ、神様の栄光に光り輝いている都です。これは暗闇のない光にあふれている都といってもいいでしょう。

皆さん、宝石が一番美しい時ってどんな時かわかりますか？ そう、光に照らされている時です。神様はあらゆる宝石で都を作り、その宝石たちを神様ご自身の栄光とキリストの光で最高に輝かせてくださるのです。だから、黙示録の 21 章 23 節にはこのように書かれています。

21:23 都は、これを照らす太陽も月も必要としない。神の栄光が都を照らし、子羊が都の明かりだからである。

皆さん、神様が私達に与えてくださる相続財産の第一がこのような神様の栄光にあふれる都なのです。しかも、私達が相続できるものはこれだけではありません。

3) 絶対的な平安

次に神の民が相続できるものは絶対的な平安です。13 節 14 節を読んでみましょう。

54:13-14 あなたの子たちはみな、【主】によって教えられ、あなたの子たちには豊かな平安がある。あなたは義によって堅く立てられる。虐げから離れていよ。恐れることはない。恐怖から離れていよ。それが近づくことはない。

「【主】によって教えられ」の部分は「【主】の弟子」と言い換えることができます。神様は宝石に飾られた美しい都だけでなく、虐げや恐れから完全に離れることができる絶対的な平安を私達に相続財産としてくださるのです。

そして、その平安は何によって与えられるかというと、【主】の教えであり、【主】の義によって与えられます。

詩篇 119 篇 165 節には以下のようにあります

詩篇 119:165

あなたのみおしえを愛する者には豊かな平安がありつまずきがありません。

「あなた」というのは神様のことですね。また、箴言 3 章 1-2 節にもこのように書かれています。

箴言 3:1-2

わが子よ、私の教えを忘れるな。心に私の命令を保つようにせよ。長い日々と、いのちと平安の年月が、あなたに増し加えられるからだ。

「私の教え」というのも【主】の教えのことです。

【主】の教えには私達に本当の平安を与える力があります。なぜでしょうか。

【主】の教えを守る時、私達が神様とまっすぐつながることができ、その神様との関係が、私達の義となり救いとなるからです。

(イザヤ 54 : 13-14 を表示)

しかも、私達が神様からこの絶対的な平和を相続するとき、私達は自動的に【主】に教えられ、【主】の弟子となり、神様の義によって私達は揺るがないものとして堅く立てられるのです。

現代社会において、私達は弱いものですから、【主】の教えを知っていたとしても不安を覚えたり、心が揺り動いてしまったりします。しかし、神様がこの相続財産をくださるのならば、私達の心がどんなことがあっても揺るがない平安を持つ事ができるのです。そのために神様の霊である聖霊様が【主】の教えを私達に思い起こさせてくださいます。だから、イエス様は十字架に掛かる前にこのように言われました。ヨハネの福音書 14 章 26-27 節を読みましょう。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

14:27 わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。

皆さん、だから私達は聖霊によって【主】の教えを持つものとされ、本当の平安を持つものにされるのです。これは素晴らしい相続財産ではないでしょうか。

4) すべての攻撃の無効化

そして、神様はただ心の中に平安があるだけでなく実際的に一切の攻撃を無効にし、私達を守ってくださることを約束してくださっています。イザヤ書に戻ってまずは 15 節を読みましょう。

54:15 見よ。攻め寄せる者があっても、それはわたしから出たのではない。あなたに攻め寄せる者は、あなたの前に倒れる。

「見よ」という言葉は、神様からの注目を求めることばですが、ここでは「もしも」と言い換えてもよいでしょう。「もしも、攻め寄せてくる者があっても」・・・「それはわたしから出たものではない」といわれます。

神様は、イスラエルを悔い改めさせるためにバビロン捕囚を経験しましたが、

【主】が神の国、永遠のエルサレムを相続されたならば、私達はもう、神様から攻められるということはないのです。しかも、もし攻めて来るような人がいたとしても、【主】は「あなたの前に倒れる」と言われています。

これは「あなたの前にひれ伏す、降伏する」と言い換えてもいい言葉が元のヘブル語では使われています。

【主】は、【主】ご自身が私達を攻めないだけでなく、敵もイスラエルを攻めず、無条件降伏することを約束してくださっているのです。なぜ、敵さえも倒れ、ひれ伏すことになるのでしょうか。16 節、17 節を読みましょう。

54:16 見よ。炭火を吹きおこし武器を作り出す職人を創造したのは、わたしである。それを壊す破壊者を創造したのもわたしである。

54:17a あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、あなたを責め立てるどんな舌も、さばきのときに、あなたがそれを不義に定める。

人を傷つける武器職人の創造主は神様であり、破壊をもたらす破壊者・・・つまり、武器を持って戦う戦士をお造りになったのも神様である。とされています。つまり、武器もそれを使う戦士も神様の許可の中でその存在が許されているのです。だから、その神様が神の民を攻めることをしないと決められたのならば、この世にあるどんな武器も役立たずの武器になります。

また、17 節には「あなたを責め立てるどんな舌も、さばきのときに、あなたがそれを不義に定める。」とありますが、これは裁判の法廷がイメージされており、例え

この世の人が口で私達を罪人にしようと攻め立ててきても、私達は決して罪人にならず、寧ろ、私達を罪人にしようとする者のほうが不義に定められるのです。

皆さん、わかるでしょうか。神様は私達に絶対的な平安を与えてくださるだけでなく、絶対的な義も与えてくださるのです。神様は敵の攻撃そのものを無効化してくださり、どんなに敵が私達を罪人と定めようとしても、その訴えは不当な訴えとして取り扱われるのです。

皆さん、サタンの別名ってなにかしっていますか？ ルシファーじゃないですよ。ヨハネの黙示録 12 章 9 節、10 節を読んでみましょう。

ヨハネの黙示録

12:9 こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。

12:10 私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。

神様は、私達を惑わし、罪人として告発し、私達のことを昼も夜も「こいつは罪人だ」と訴える者である。サタンが【主】によって地獄に投げ落とされ、【主】が勝利してくださることを約束してくださっています。

【主】はすべての私達を訴える声を無効化してくださるのです。それはなぜでしょうか。私達のために十字架にかかったキリストが、ご自分と一緒に私達の罪をも十字架の上で殺してくださったからです。罪人としての私達はもはやキリストと一緒に十字架の上で死んでいます。

だから、サタンが一生懸命、私達の悪いところ、弱いところ、足りないところを挙げて、「お前は罪人だ。神様に愛される資格などないものだ、神様に裁かれ、神様から切り離されなければいけない存在だ」と訴えたとしても、私達は罪に定められず、寧ろ、その訴えをしたサタン自身が罪あるものとして、神様に裁かれるのです。

皆さん、だから皆さんの弱さ、罪深さを誰かに責められたとしても、仮に皆さん自身が、自分の弱いところ、罪深いところをみて罪悪感に苦しめられたとしても、絶望しないでください。神様は、皆さんがどんなに罪深いことをしていたとして

も、また、罪を繰り返すようなことがあったとしても、皆さんに対するすべての攻撃を無効化してくださっているのです。

私達に対する攻撃の無効化。これもまた、神様から私達に与えられる相続財産です。

結論)

だから、神様はこの預言の結論としてこのように言われています。17節の後半を読みましょう。

54:17b これが、【主】のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。——【主】のことば。」

「【主】のしもべたち」とは、イスラエルに限らず、霊的イスラエルである私達のことでもあります。ガラテヤ人への手紙 6章 15-16節にはこのように書かれているからです。

ガラテヤ人への手紙

6:15 割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なものは新しい創造です。

6:16 この基準にしたがって進む人々の上に、そして神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように。

皆さん、だから、キリストによって新しく造られた私達もまた、神のイスラエルなのです。そして、神様はそんな私達に対して今日の箇所です。三つの相続があることを教えてくださいました。

一つは、神様の「栄光に輝く都」です。【主】はご自身の栄光によって輝く光あふれる神の都を私達に相続させてくださいます。

二つ目は、「絶対的な平安」です。神様は私達を【主】の弟子とし、【主】の教えによって私達に豊かな平安を与え、私達を義として、私達がすべての虐げや恐れから離れることができるようにしてくださいました。

そして、三つ目の相続が、「攻撃の無効化」です。サタンは私達を罪人にしようと誘惑し、実際に神様の前で私達の罪を叫んで、なんとかして私達を神様から引き離そうとします。しかし、神様は私達を傷つける武器も、戦士も、そして、サタンの

ような訴える者もすべてを無効にし、私達が一切傷つかないでいいように、罪人として神様の前で恥ずかしくないでいいようにされます。私達はサタンがどんなに訴えても無くならない義を神様から与えられているのです。

「栄光に輝く都」「絶対的な平安」「一切の攻撃の無効化」これが今日の箇所で語られている神様から与えられる私達の相続財産です。これを得るために必要なことは【主】を信じることだけです。それ以外は面倒な手続きも、立派な行いも必要ありません。無条件でこのような相続が与えられるのです。

皆さん、これほど素晴らしいことは他にないのではないのでしょうか。

この世の相続は面倒で厄介なことかもしれません。

でも、神様がくださる相続は、私達に栄光と平安と義を与えてくださるものです。

私達はこのことを希望として握りしめ、【主】を信じ歩み続けていきましょう。

お祈りをいたします。